

学習成果の観点別成績評価による質保証システムの構築

東海大学短期大学部

山本康治・桑原公美子・佐藤絵里子

1 はじめに

本学では、「学習成果」の観点で、シラバス、授業、成績評価、現場体験プログラム結果等を統合し、学生の資質・能力形成状況を常に可視化することで、教育の質保証に向けたシステムを構築した。

2 観点別成績評価

専門職に求められる資質・能力調査を踏まえて策定された「学習成果」（9項目）の観点別成績評価システムにより、学生が身につけた資質・能力の可視化を行った。具体的には、各授業毎に観点毎の評価比率、評価方法をシラバスに明示するとともに、成績評価の際には、e-ポートフォリオシステムにより、評価比率を反映させた成績評価を算出するとともに、修得した全科目の観点別評価を個々の学生単位に集計することで、当該学生の「学習成果」の観点別習熟度を可視化できるようにした。

3 面談カウンセリング

e-ポートフォリオを活用した「学習成果」観点別の成績評価結果を踏まえ、個々の学生に対する「面談カウンセリング」を実施した。学期毎の「学習成果」の修得状況を踏まえ、次学期の「目標設定」を具体的に行うとともに、学期終了後は、「自己評価」「面談評価」を実施した。これらを学期毎に繰り返して、学生が学習成果を自覚的、主体的に身につけられるようになった。また、e-ポートフォリオにより、それらの状況を教職員間で共有することで、個別かつ継続的な支援ができるようになってきた。

4 ディプロマ・サプリメント

形成された資質・能力は、個々の学生単位で出力される「ディプロマ・サプリメント」に集約される。「ディプロマ・サプリメント」では、2つのレーダーチャートにより、当該学生の観点別学習成績による「学習成果値」と面談カウンセリングによる「面談評価」が明示される。更に、e-ポートフォリオに収められた「現場体験プログラム」等からの学びの結果も反映されるようになっており、学生の資質・能力を総合的に可視化できるようになっている。「ディプロマ・サプリメント」の活用については、①「面談カウンセリング」の際の学生の「面談評価」の際の根拠資料として活用し、当該学生の資質能力形成の特徴（得意、不得意、バランス）を学生と共有しながら適切な学修指導、支援を行うことができる。②専門職への就職支援、就職先とのマッチングや「推薦書」「人物調書」作成の根拠資料として活用することができる。③卒業後（専門職採用後）の育成支援のための基礎資料として、就職先において活用することができる。ただし、この点については、本人及び就職先との合意が前提となる。なお、この活用については、外部評価委員（保育園長）からの要望がなされている。

5 成果と課題

本取組により、学生全体、学生個々の「学習成果」修得状況が時系列（学期毎）で把握できるようになり、「面談カウンセリング」の際にはそれに基づいた、学修指導、進路指導を行うことができるようになった。また、本システムの信頼度に対するアセスメントとして、学科（学位プログラム）単位での「観点別成績評価結果」と「既卒者観点別評価結果」（新卒1年以内の就職先に対する訪問調査）との対比を行ったが、「学習成果」観点別の修得状況は、同傾向を示しており、本システムの信頼度は担保されたと判断している。本学科は、今後4年制学部へ転換が予定されているが、今後、継続的かつ発展的に本システムを導入し、改めて授業内容、科目配置のバランス等を精査するとともに、就職先と連携した「養成－育成モデル」構築のための基礎的ツールとして有効に活用する予定である。